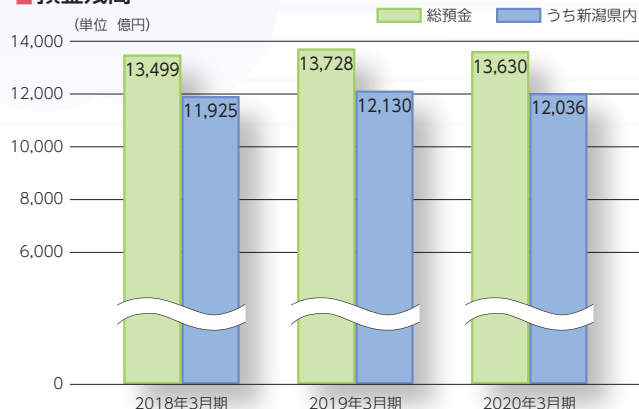


2020年3月期決算の概要

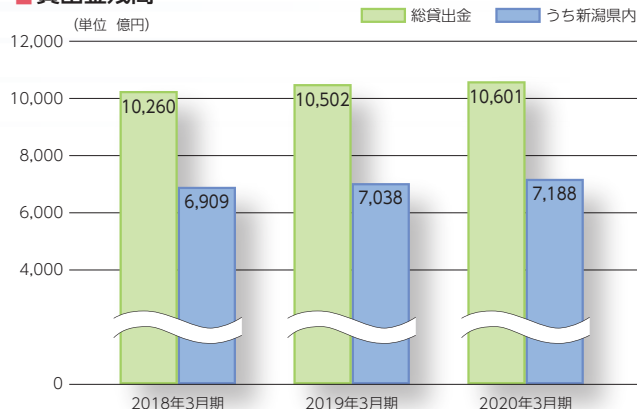
預金残高



預金等残高（含む譲渡性預金）は、法人預金は増加したものの、個人預金および公金預金の減少などにより前年同期比98億円減少の1兆3,630億円となりました。

新潟県内預金等残高は1兆2,036億円、県内預金比率88%です。

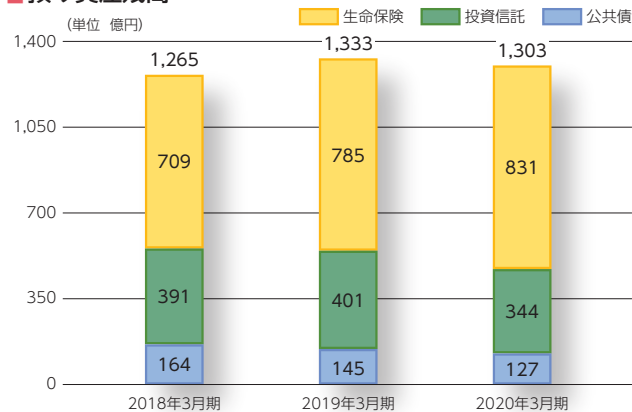
貸出金残高



貸出金残高は、住宅ローンを中心に個人向け貸出が増加したほか、地公体向け貸出が増加し、前年同期比99億円増加の1兆601億円となりました。

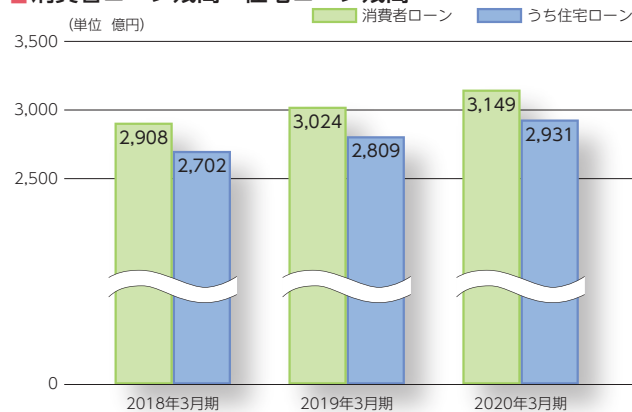
新潟県内貸出金残高は7,188億円、県内貸出金比率は67%です。

預り資産残高



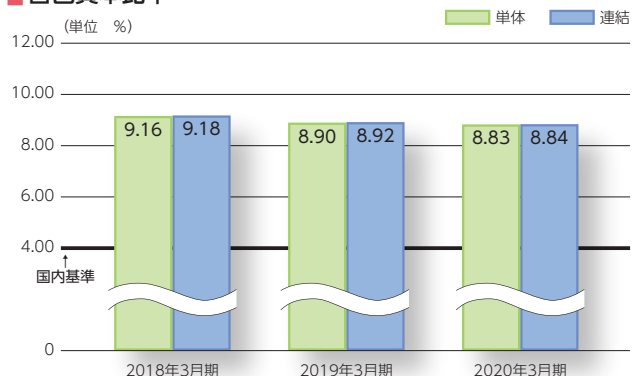
預り資産残高は、生命保険は増加したものの、マーケット環境により投資信託および公共債が減少したため、前年同期比30億円減少の1,303億円となりました。

消費者ローン残高・住宅ローン残高



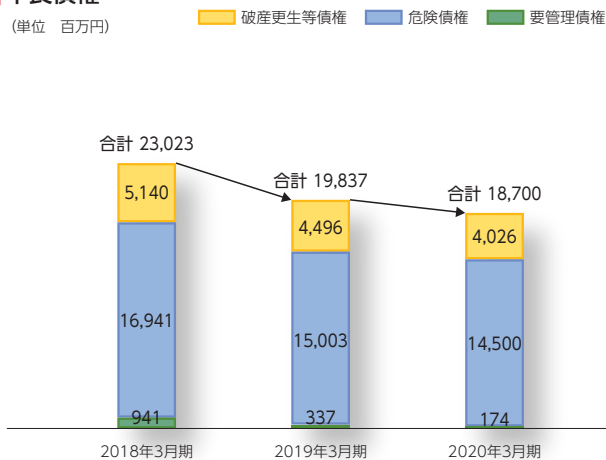
消費者ローン残高は、住宅ローンを中心に前年同期比125億円増加し、3,149億円となりました。

自己資本比率



自己資本比率は、単体が8.83%、連結が8.84%といずれも規制値の4%を大きく上回る水準であり、引き続き高い健全性を維持しております。

不良債権



不良債権比率 2.23% → 1.87% → 1.74%

金融再生法に基づく開示債権額は、前年同期比11億円減少の187億円で、総与信額に占める割合は1.74%となりました。

自己資本比率とは

貸出金や有価証券などの総資産（リスクアセット）に対する自己資本（資本金・内部留保など）の割合を示すもので、高いほど健全といえます。当行のように国内業務のみを営む銀行は4%以上を維持することが義務付けられています。

■ 損益

(単位 百万円)

	2020年3月期	2019年3月期	増減
業務粗利益	15,117	16,544	▲1,427
(資金利益)	(15,005)	(15,498)	(▲ 493)
(役員取引等利益)	(614)	(677)	(▲ 63)
(国債等債券関係損益)	(▲ 506)	(313)	(▲ 819)
経費	12,960	12,930	30
一般貸倒引当金繰入額	233	—	233
業務純益	1,924	3,613	▲1,689
(コア業務純益)	(2,663)	(3,300)	(▲ 637)
不良債権処理額	1,560	441	1,119
株式等関係損益	2,105	838	1,267
経常利益	2,587	3,842	▲1,255
当期純利益	1,131	2,532	▲1,401

$$\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$$

$$\text{コア業務純益} = \text{業務純益} + \text{一般貸倒引当金繰入額} - \text{国債等債券関係損益}$$

<前年同期との比較>

■ コア業務純益

資金利益や役員取引等利益が減少したほか、経費が増加したことなどにより、前年同期比で6億37百万円の減益となりました。

■ 経常利益

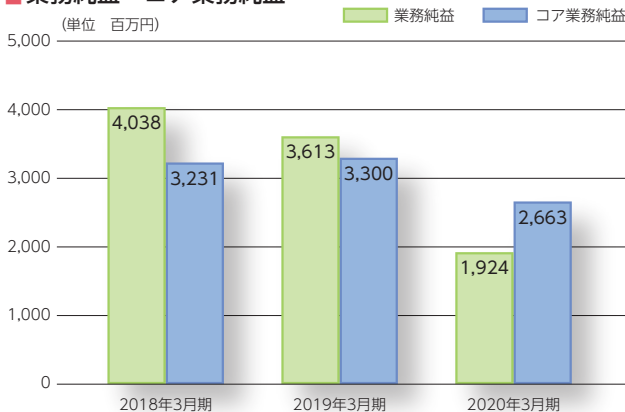
株式等関係損益は増加したものの、不良債権処理額の増加や国債等債券関係損益の減少などにより、前年同期比で12億55百万円の減益となりました。

■ 当期純利益

経常利益の減益を受け、14億1百万円の減益となりました。

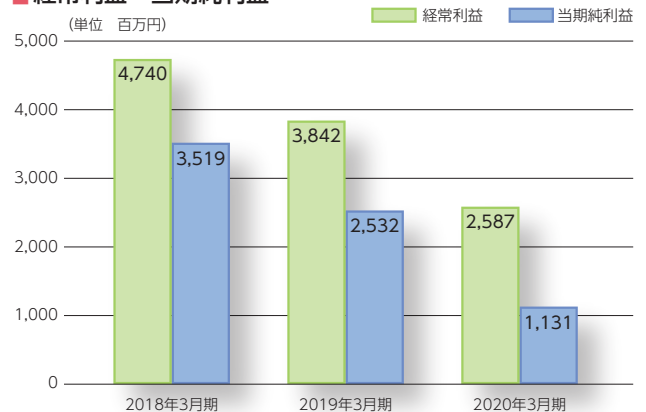
■ 業務純益・コア業務純益

(単位 百万円)



■ 経常利益・当期純利益

(単位 百万円)



■ 有価証券の評価損益

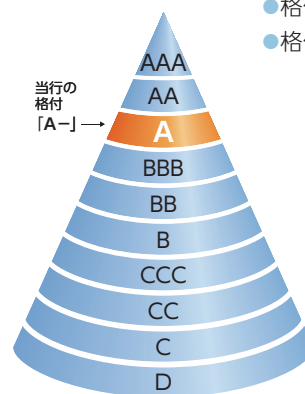
(単位 百万円)

	2020年3月期	2019年3月期	増減
満期保有目的	▲ 76	▲ 42	▲ 34
その他有価証券	444	12,761	▲12,317
株式	3,410	4,536	▲ 1,126
債券	2,165	4,633	▲ 2,468
その他	▲ 5,131	3,592	▲ 8,723
合計	367	12,719	▲12,352

有価証券全体の評価損益は3億67百万円となり、前年同期比123億52百万円減少しました。

■ 格付

株式会社日本格付研究所(JCR)より格付を取得しています。



● 格付:「A-」(シングルAマイナス)

● 格付の種類:長期発行体格付

※長期発行体格付とは、債務者(発行体)の債務全体を捉えて、その債務履行能力を評価したものをいいます。

※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして「+」もしくは「-」の符号による区分があります。